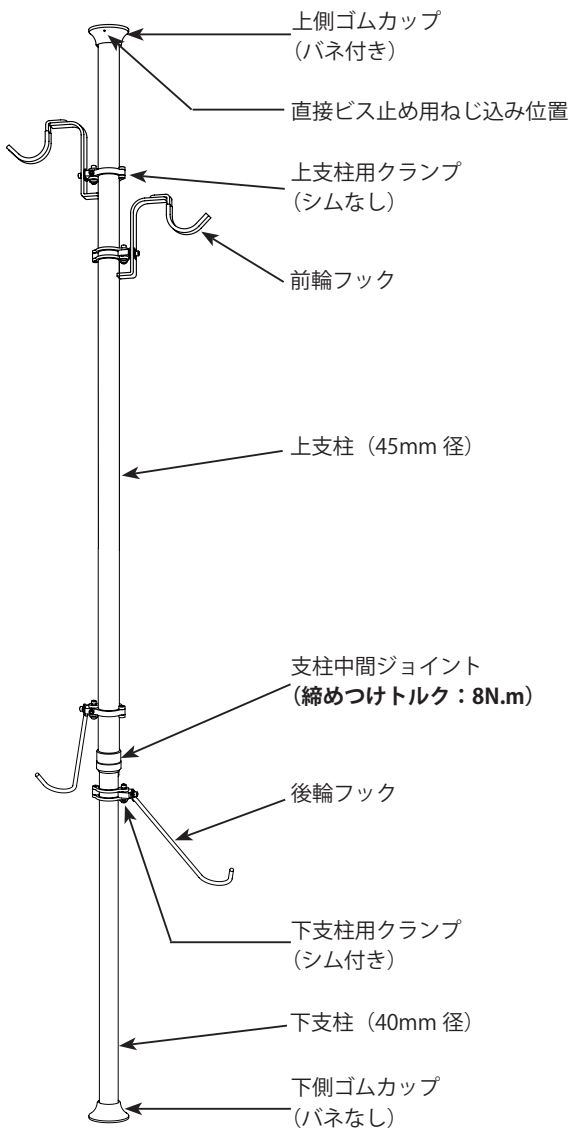


このたびは「バイクピット 4」をお買い求めいただきまして、ありがとうございます。

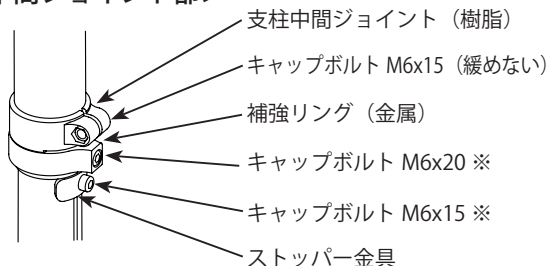
バイクピット 4 は突っ張りポール式の構造により床から天井までの高さが 1.7 ~ 3.1 m の場所であれば工具なしで簡単に設置できる自転車収納スタンドで、自転車を前輪から吊るすことにより省スペースで 2 台の自転車を収納することができるシステムスタンドです。

ご使用になる前にこの説明書を最後までしっかりとお読みになり、各注意事項に十分注意を払った上で正しく安全にお使いください。

各部の名称



<支柱中間ジョイント部>



(※ボルトの締め付けトルクはいずれも 8N.m にて)

注意していただきたいこと

- 一般の 2 輪自転車専用です。全長の長いタンデム車やロングテール車、後輪が極端に小さい車、重量のある電動アシスト車や DH バイクなどで使用する場合は、搭載時にバランスを崩したり車体をまっすぐ吊り下げられない恐れがあるため使用できません。
- バイクピット 4 での最大荷重は全体で 50kg までです。ただし片側にしか自転車をかけない場合は重量バランスが悪化するため 20kg までとします。
- 自転車を吊り下げた際に後輪が床面に触れていると自転車の安定が悪くなってしまいます。後輪が完全に宙に浮くように、前輪フックの高さは十分に取ってください。
- 支柱中間ジョイントをしっかりと締め付けて設置したあとに、上支柱を手で持ち体重をかけて引き下げてみて、上支柱がずり下がってこないことを確認してください。もし動いてしまう場合はそのまま使用しないで、部品（支柱中間ジョイント）を交換する手配をしてください。
- バイクピットの支柱は、上側ゴムカップの中にあるバネの力により天井側に押し付けられることで支えられています。天井のゴムカップが当たる箇所は、必ず梁で補強された場所にしてください。梁がなく天井板だけの場所だとバネの力で天井を突き破ってしまう恐れがあると同時に、十分な力で支柱を支えることができず使用中に外れて転倒してくる恐れがあります。
- 添付の樹脂ストラップを使って上支柱を天井もしくは壁に結びつけ万一の転倒を防止してください。ストラップを使用しないまま設置して万が一転倒したとしても、弊社はその損害の責任を負いかねます。
- 支柱の長さは正しく調整してください。設置したときにも上側ゴムカップから赤い樹脂部品が見えていたとしたら、それはまだ支柱を必要十分に伸ばしきっていないことを意味します。いったん取り外してから、後述の説明に従って支柱をもう少し伸ばしてから正しく設置してください。
- 上下支柱はひっくり返して使用することはできません。必ず細い方が下側になるようにして使用してください。また支柱を横倒しにした突っ張り棒のようにには使用しないでください。
- 床と天井は必ず水平で平行でなければなりません。斜めに傾斜している天井や床の場所には安全に取り付けられません。
- 支柱は必ずどの方向から見ても完全に垂直になるように設置してください。傾いたまま設置すると十分に保持されなくなり、使用中に転倒してくる恐れがあり危険です。
- ゴムカップの材質は十分に吟味してありますが、床や天井の材質や表面コートの種類によってはゴムカップの跡を付けてしまうことがあります。賃貸住宅など跡を付けてしまうことが許されない場合はゴムカップとの間に紙や木板を 1 枚だけ挟んでください。
- 前輪フックにはリムへの傷付き防止のためとしてビニールチューブが通してあります。しかしリムの表面処理や貼り付けてあるシールやフィルムの材質によっては、長時間の吊り下げ保管により自然に融着してしまうことがあります。気になる方はフックのビニールチューブを取り外すか、あるいはフックに包帯や使わなくなったバーテープなどを巻いて直接フックとリムとが触れ合わないようにしてください。
- バイクピットに搭載された自転車やフックを押ししたり引っかけたりすると、支柱を中心に全体が回転してしまいます。もしそうなっても大丈夫のように、バイクピットの周囲には壊れやすいものなどを置かないでください。
- 自転車の装着位置によっては、細い下支柱にあらかじめ取り付けられているクランプを太い上支柱に付け替えなければならない場合があります。その際は樹脂シムを取り除いてクランプのみで装着してください。逆の場合は樹脂シムの装着を忘れないでください。
- 前輪から吊り下げることによってホイールが変形したりすることはありませんが、無理に引き下げたり自転車に重い装備を取り付けたままにしないでください。

ボルトねじ込み時の注意



ネジというものはその構造上、ある角度では斜めにねじ込んでしまいます。ほんの1回転ほどで引っかかって止まってしまいますが、これをネジ山に何か異物があるって止まったのだと勘違いして工具で無理に回し、メスネジ側を破壊してしまうというトラブルがあとを絶ちません。ボルトはできるだけ工具を使わずに慎重にねじ込んでいき、はじめの3回転ほどが問題なくスムーズにねじ込めることを確認してから初めて工具を使っての本締めを行なうようにしてください。はじめからいきなり工具で本締めしようとしてはいけません。

支柱の設置について

仮設置→寸法修正→本設置→確認→固定の順で設置します

1 支柱中間ジョイントの下にある金属リングのボルト(M6x20)を緩めます(上側の樹脂側のボルトは緩めません)。これで支柱は伸縮できるようになります。

2 バイクピットの方向性に注意しながら、支柱を床に立て、上支柱を天井に向けて伸ばします。上側ゴムカップが天井に当たったところで、M6x20ボルトを軽く締めて支柱の長さを仮決めします。これがバネを縮めない状態で測った天井から床までの長さです。

3 いったんバイクピットを取り外して、床に横たえます。

4 仮決めした支柱をあと20ミリだけ伸ばします。(図1) 先ほど仮決めしたM6x20ボルトを緩め、下支柱を20ミリだけ伸ばし、今度はボルトを8N.mで締め付けて固定します。これで最終的な支柱の長さが決まりました。

5 次にストッパー金具のM6x15ボルトを少し緩め、下支柱に設けられた溝に沿って上げていき、中間ジョイントに密着させたところで8N.mで締め付けます。これは万一中間ジョイントが緩んだとしても支柱が縮んだりしないようするための安全装置です。

6 次に支柱の設置です。(図2)
 ①まず上側ゴムカップを天井の梁の入っている丈夫な場所に押し当て、そのまま上に突き上げるようにして支柱上端のバネを縮めます。
 ②持ち上げたまま、斜めになっている支柱を立てていき、
 ③垂直になったところで静かに床に下ろして支柱を立てます。



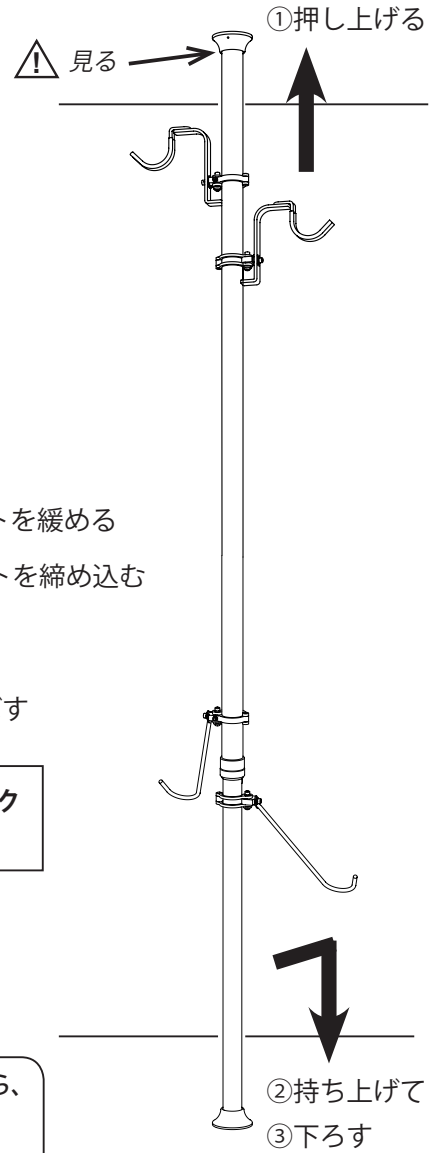
支柱を立てたとき、もし上側ゴムカップから赤い危険インジケータが見えていたら、それは支柱がまだ必要十分に伸ばし切れていないことを意味しています。いったん支柱を外し、赤いインジケータが完全に上側ゴムカップに隠れる程度に支柱を伸ばし直してから、もう一度設置してください。

7 上支柱をつかんで体重をかけて引き下げてみて、中間ジョイントがしっかりと固定されていることを確認します。

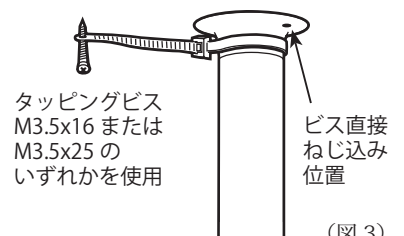


この確認は必ず行なってください。これを実施しないままで使用して万一不具合で倒れたりした場合には、弊社はその責任を負いかねることになります。もし上支柱がずり下ってしまう場合は、バイクタワーは使用せず、すみやかに販売店が弊社までご連絡ください。部品交換の手配をいたします。

8 上支柱の上側ゴムカップ付近に添付の樹脂ストラップを巻き、しっかりと絞って抜けないようにしてからその端をタッピングビスで天井もしくは壁の構造材にしっかりとねじ込むか、あるいは指定位置に直接ビスをねじ込み天井に固定するなどして、万一の地震などで支柱が外れて倒れてこようとしても保持できるようにしてください。これは必ず実行してください。



(図2)



(図3)

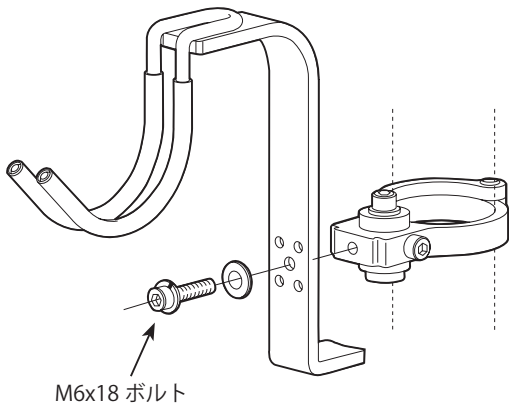
フックの取り付け

前輪フックと後輪フックをそれぞれ支柱に取り付けます。自転車1台につき上下フックが各1ヶ必要になります。吊り下げる自転車の後輪が床に触れない高さになるよう、前輪フックの位置は適切に決めてください。

<前輪フック>

上支柱に取り付けられる前輪フックは左右の自転車のハンドルバー同士が干渉しない程度に高さをずらしてセットする必要があります。

前輪フックは必ず支柱の左右それぞれ真横に取り付けてください。180度より狭角の配置にすると自転車同士がぶつかって不安定になる原因となります。



M6x18 ボルト

M6x12 ボルト

<後輪フック>

後輪フックは下支柱に取り付けます。

重量バランスのせいで、自転車はそのまま吊り下げるだけでは決して直立せず奥に向けて斜めになります。

収納スペースを小さくするためには、できるだけ自転車を垂直に吊り下げるべきで、それには後輪の位置を引っ張って前に出してやる必要があります。

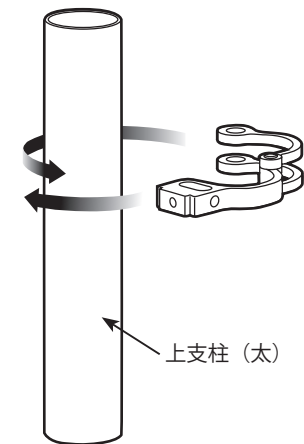
後輪タイヤのいちばん遠い部分をフックに掛けて引き寄せた際に自転車が直立する位置に後輪フックを設置してください。リムやスポークにフックを掛けるのは誤りです。フックはじわっと動くのみで、完全固定はされませんし、またできませんことを、あらかじめご承知おきください。

クランプの再装着のしかた

支柱にあらかじめ装着してあるクランプは基本的に外す必要はありませんが、天井の高さ次第では、またオプションの追加などでクランプを分解し取り付けることもあります。クランプのピボットピン固定ボルトには方向の指定がありますので、以下の説明に正しく従ってください。向きを間違えるとしっかり固定できずに自転車がずり落ちたり、部品の破損を招く場合があります。

1

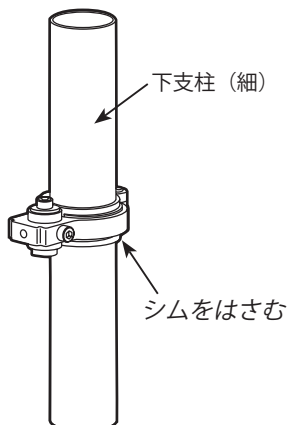
まず分解したクランプを支柱に巻き付けます。クランプの向きは左右どちらでもかまいませんが、ここではクランプの1本アーム側が向かって右側に、2本アーム側が向かって左側になるという前提で説明します。



上支柱 (太)



細い下支柱に取り付ける場合は、樹脂製シムをスペーサーとしてクランプの内側に巻く必要があります。シムの外周を見て2本の突起溝がある方が1本アーム側になるようにします。



下支柱 (細)

シムをはさむ

2

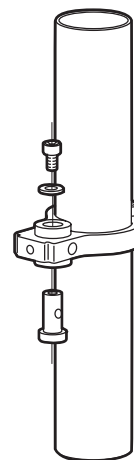
重ね合わせたクランプの下側から3つの孔すべてを通してピボットピンを通し、上から平ワッシャを通したピボットピン固定ボルトを軽くねじ込みます。



ピボットピンを上から通すと、六角レンチでボルトを回せなくなります。



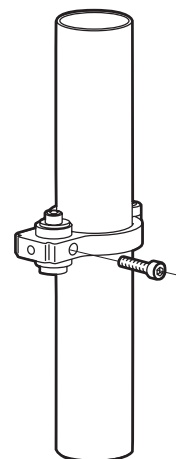
ピボットピン固定ボルトはまだ完全には締め込まないでください。次の作業が行えなくなります。



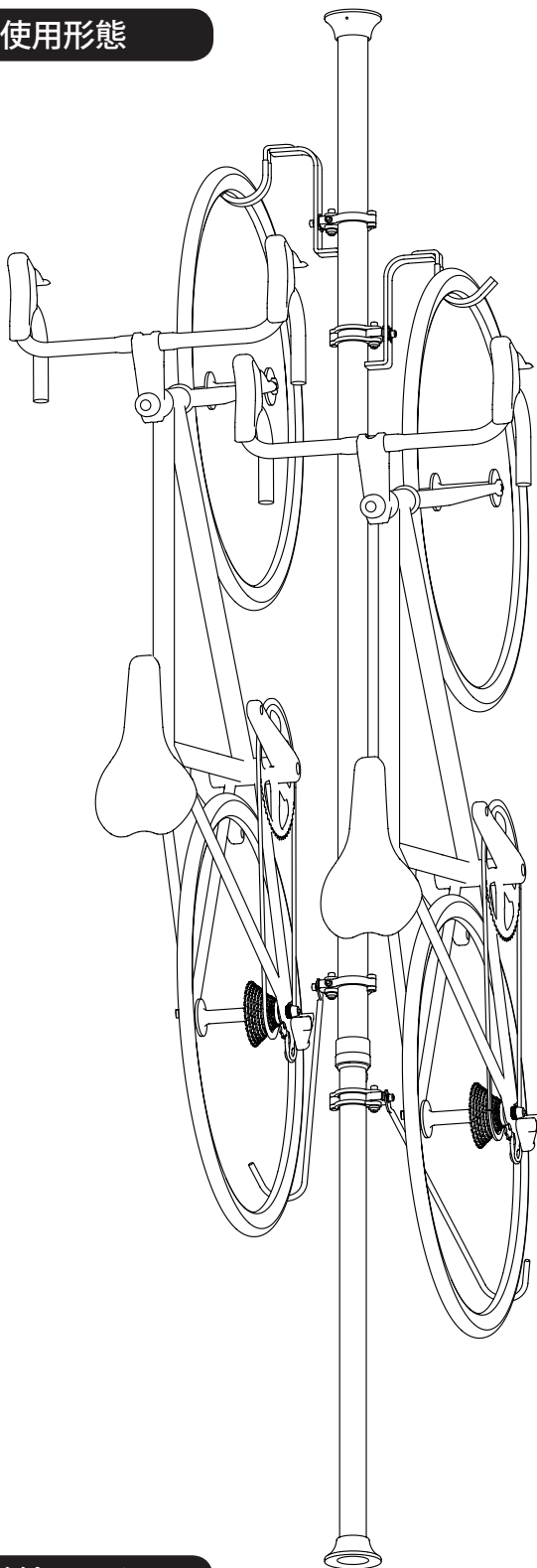
3

ピボットピンを回転させ、ピンの側面にあるネジ孔をクランプ右側の孔と合わせます。その状態でクランプ締め付けボルトをピボットピンにねじ込みます。

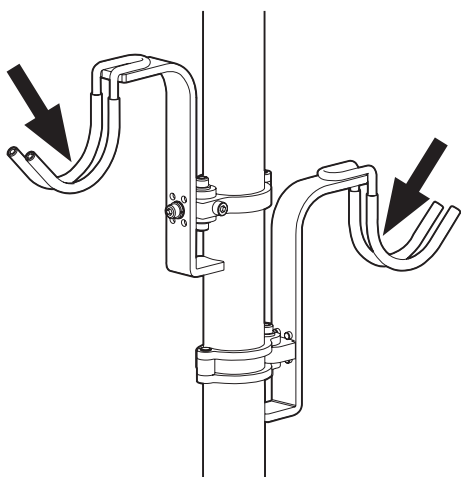
クランプを固定するには、まず最初にクランプ固定ボルトを、続いてピボットピン固定ボルトの順で締め込みます。



使用形態



前輪フック



前輪フックには黒いビニールチューブが通してあります。これは金属のままだとリムに接した部分に傷を付けてしまうことを防止する目的で装着してあるものですが、逆にビニールチューブがあることによってリムに貼り付けてあるシールや保護フィルム、あるいはカーボンホイールの透明コートと自然融着が起こり、それらを変色や破損させてしまうというおそれもあります。これは特に長期間同じ位置で吊り下げっぱなしにした場合や、保管場所が高温になる場合に起き得ます。

それが気になる方はビニールチューブを取り外すか、あるいはフックをバンデージなどで巻く、または布を1枚挟むなどして、直接リムと接触しないように対処してください。なお弊社ではビニールチューブが原因となるホイール等へのダメージについてはその責任を負いません。

品質保証期間

本商品の品質保証期間は、お買い上げ日より**1年間**です。ただし自然摩耗や、弊社の事前の許可のない改造や分解に起因するものなどは対象外です。詳しくは添付の「製品保証規定」カードを、また最新の情報については製造メーカーのウェブサイトをご参照するようにしてください。

お問い合わせ先

商品に関するお問い合わせは、まずお買い求めになったショップに最初にご相談ください。

<販売元>

株式会社 深谷産業

〒462-0062 愛知県名古屋市中区新沼町150

Phone (052) 909-6201

Fax (052) 909-6212

Web www.fukaya-sangyo.co.jp

<製造元>

株式会社 箕浦

〒503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸1197-1

[営業部]

Phone (0584) 27-3131

Fax (0584) 27-7505

Mail minoura@minoura.jp

Web www.minoura.jp

[カスタマーサービス]

Phone (0584) 27-3132

Fax (0584) 27-4258

Mail infodesk@minoura.jp

日本製